

4

下總皖一と民謡を創った 詩人・高橋 郁^{いく}

加藤良一 男声合唱団コール・グランツ 2024年5月27日

民謡交響詩『坂東栗橋感懐』に採り上げた「栗橋草刈り唄」、「小舟を出せば」、「泊り舟」、「栗橋音頭」はいずれも詩人・高橋^{いく}郁の作詞によるものです。「栗橋音頭」は昭和47年(1972)に作曲されましたが、他の3曲は昭和12年(1937)頃の作とされています。ところが高橋 郁さんについては、調べても意外と詳細な情報がないようです。

郵便局務めのかたわら詩作に励む高橋郁

高橋郁という詩人は、現在の久喜市となった旧豊田村中里で生まれ育ち、郵便局勤務のかたわら詩作や随筆などの執筆活動を行いました。隣り町大利根出身の作曲家下總皖一と出会ったことで、それが民謡などの作品となって地元で愛され歌われるようになりました。さらに母校の小学校校歌の作詞も手掛け、それがいまでも子どもたちによって歌い続けられています。

【高橋郁 略歴】

- ・明治37年(1904)8月14日 埼玉県北葛飾郡栗橋町中里(現・久喜市中里)に生まれる。
- ・大正5年(1916) 豊田尋常小学校(現・久喜市栗橋南小学校)卒業。
東京通信局通信養成所で研修
- ・大正10年(1921) 栗橋郵便局勤務。この間、歌曲の歌詞を作詞。短歌、俳句、随筆を残す。



ご遺族の元にも遺された写真はこれしかないようです

- ・昭和7年(1932) 豊田小学校校歌を作詞、作曲は下總皖一。高橋郁28歳、下總皖一34歳であった。埼玉県内最古の校歌に属するといわれている。これがのちの栗橋南小学校校歌として引き継がれる。
- ・昭和12年(1937) 東京音楽学校(現・東京藝術大学)より師範学校・高等女学校用にと委嘱を受け、「泊り舟」、「草とあれば」を作詞。
- ・昭和31年(1956)8月 栗橋郵便局長就任。
- ・昭和35年(1960) 栗橋郵便局退職。
- ・昭和47年(1972) 栗橋町商工会の委嘱により「栗橋音頭」を作詞。
- ・昭和55年(1980) 埼玉県文化ともしび賞受賞。
- ・昭和60年(1985) 随筆「土橋の上から」執筆。
- ・平成元年(1989) 東武日光線南栗橋駅開通記念に「南栗橋音頭」を作詞。作曲は柿沼勇夫。
- ・平成4年(1992) 勲六等瑞宝章叙勲。88歳。
- ・平成7年(1995)11月17日 没(91歳)



左の写真は、昭和11年(1936)に撮影された栗橋郵便局(左)と栗橋銀行(右)です。さすがに銀行は堅牢そうな作りとなっています。両方ともその後移転しました。

下の写真が現在の栗橋郵便局です。



※ 豊田尋常小学校～栗橋南小学校の歴史

明治6年(1873) 真光寺を仮校舎とし愛敬学校創立

明治8年(1875) 愛敬学校を聲門学校と改称

明治23年(1895) 聲門学校を豊田尋常小学校と改称。

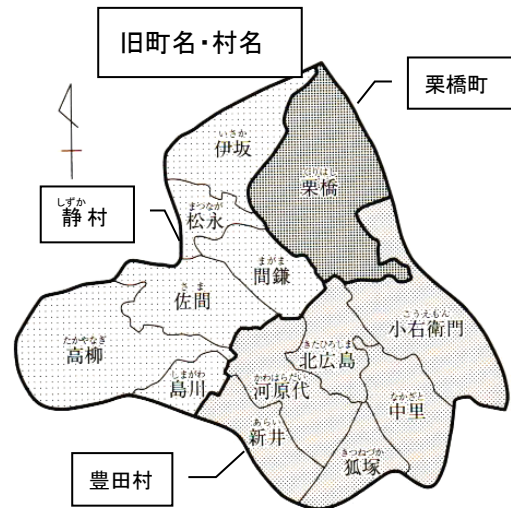
昭和22年(1948) 栗橋町立豊田小学校と改称

昭和24年(1949) 町村分離により、豊田村立豊田小学校と改称

昭和32年(1957) 町村合併により、栗橋町立豊田小学校と改称

平成22年(2010) 久喜市、栗橋町、鷲宮町、菖蒲町が合併し新久喜市誕生。栗橋町立栗橋南小学校と改称、現在に至る

栗橋南小学校校歌
高橋郁作詞、下總皖一作曲
〔一番〕
武蔵野わたる 朝風に
遠き山々 さむるころ
我等は急ぐ 道すくに
目指す^{まなびや}学舎 あゝ豊田



栗橋南小学校校歌の歌詞にある「豊田」とは、もともとその一帯が豊田村と呼ばれていたところから、親しみと誇りをもって歌われました。豊田尋常小学校は、その後歴史とともに校名が三度も変わりましたが、校歌はそのまま継承されてきました。南栗橋で毎年行われている夏祭りも「豊田ふるさと祭り」と呼ばれています。

合唱とピアノのための民謡交響詩「坂東栗橋感懐」

1. 栗橋草刈り唄

作1937年頃 高橋郁作詩 下總皖一作曲

朝は朝霧 おら草刈りだよ
歌ででかけりゃ 気が躍る
ドッコイ サツサト 刈れ 刈れ
ドッコイ サツサト 刈れ 刈れ (※)
刈って集めた^{ぬ くさ おぐさ} 濡れ草 小草
まアだ 一荷にゃ ちと足りぬよ
※ くり返し
霧が霽れだしゃ 出たがる朝日
好きな口笛 好きな唄
※ くり返し

2. 小舟を出せば

作1937年頃 高橋郁作詩 下總皖一作曲

軒の下から 小舟を出せば
道も畑も 水の底
それは昔サ
ヤレトンヤレナ (※)
枯れた^{まこも}真菰 ちよいと出たお月
水の^{おさと}小郷を よう照らす
※ くり返し

3. 泊り舟^{とまぶね}

作1937年頃 高橋郁作詩 下總皖一作曲

岸の柳のつぶら芽は
 そよ吹く風に 誘われて
 いつか清しき葉となりぬ^{すが}
 優しき青き 葉となりぬ

やおらなびけど 音もなき
 柳の枝に^{くゆり} 燻りたつ
 白き煙を訝^{いぶ}かれば
 まだ帆を上げぬ 泊り舟

4. 栗橋音頭

作1972年 栗橋民謡 高橋郁作詞

日光街道で 名の出た宿場
 さても栗橋ァ 歴史の町よ
 いいとこどっこいしょ
 籠^{かご}の殿様 どなたでござる
 毛槍ふりふり 声高々に
 ここは栗橋
 いいとこどっこいしょ
 さても栗橋
 いいとこどっこいしょ
 思い出します 舟^{ふな}戸の柳^と
 真帆^{まほ}よ 片帆^{かたほ}よ 入船^{いりぶね}出船^{でぶね}
 ここは栗橋 歴史の町よ
 展^のびる町並み 繁盛^{やなみ}の家並
 聞いてお帰り 栗橋音頭

民謡交響詩『坂東栗橋感懐』の「坂東」とは

坂東とは、関東地方の古称。足柄峠および碓氷峠の坂から東方の地域の意から出た呼び名で、奈良時代以前には関東八か国のほか陸奥国をも含めた九か国を意味する場合もあった。のち白河・菊多(のちの^{なごそ}勿来^{せき})関以南の八か国(関八州)をさすことに定着した。

<バックナンバー>

2024年

| | | | |
|-----------------------|-------|--|------|
| ❖No.3 | 5月15日 | 地元愛溢れる新民謡「音頭」は地域を作る | 加藤良一 |
| ❖No.2 | 4月10日 | 和声学の神様と言われた下総皖一の業績 | 加藤良一 |
| ❖No.1 | 4月2日 | 男声合唱団コール・グラント創立35周年記念委嘱新作 合唱とピアノのための民謡交響詩「坂東栗橋感懐」 | 加藤良一 |



[Back](#)

[坂東栗橋感懐TOPへ](#)

[Home](#)

[HOME PAGEへ](#)